

[野球部]「秋季リーグ戦」展望

東都大学野球 一部復帰へ

投手中心に「守り」重視 開幕に向け、準備OK

照りつける日差しが暑さを増す中、専大伊勢原野球場では連日、熱いトレーニングが行われている。来月5日に開幕を迎える東都大学野球秋季リーグ戦(2部)に向けて、チームは今、一丸となって猛練習中である。

「春は勝てない試合が続き、苦しいシーズンだった」と振り返る浦雅主将(商4・池田高)。しかし「リーグ戦後は、秋に向けてすぐに気持ちを切り替えることが出来た」と話し、「この夏の合宿でいかに準備出来るかが秋季リーグ戦を大きく左右するんです」と語ってくれた。

投手陣の柱として今季の活躍が期待される西村光由(経営3・山梨学院大付高)は「まだ精神的に弱いところがある」と話すが、1年次から守りの中心を担い、春季はチームトップの3勝を挙げた。秋に向けて「課題のコントロールを向上させたい」と語る。

長谷高成泰監督は「チームの課題は投手を中心とした守りを重点的に、安定した力をつけること」と語る。「元気を出して、何事も積極的にやろう」をチームのモットーにしているそうだ。8月は前半が大阪・名古屋への遠征、中盤から後半にかけてはオープン戦と、実戦形式の練習を積み、そして開幕戦に挑むというスケジュール。選手たち、特に最後のシーズンとなる4年次生には「1日1日を大切に、悔いのないよう過ごしてほしい」と語った。

間もなく始まる秋季リーグ。そこではさらに成長した専大ナインの姿が見られそうだ。ぜひ「神宮」へ応援に行こう。最後に浦主将に、今季にかける意気込みを語ってもらった。「これまで悔しい思いしかしていないので、1部復帰を置き土産として終えたいです」。



連携プレーを重点に「守り」の練習(伊勢原グラウンドで)

東都大学野球秋季リーグ戦(2部) 日程表(案)

9月5日(月)	専修大一亜 大	(13:00)
6日(火)	亜 大-専修大	(10:30)
20日(火)	東農大-専修大	(13:00)
21日(水)	専修大-東農大	(10:30)
26日(月)	専修大-拓殖大	(13:00)
27日(火)	拓殖大-専修大	(10:30)
10月11日(火)	國学大-専修大	(10:30)
12日(水)	専修大-國学大	(13:00)
17日(月)	専修大-国士大	(10:30)
18日(火)	国士大-専修大	(13:00)

◇全試合、神宮第2球場で開催

◇雨天、その他は順延

◇神宮テレホンサービス ☎03(3401)8770

※日程は8月10日頃に正式決定。来月号の

本紙、または東都大学野球連盟ホームペ

ージ (<http://www.tohto-bbl.com/>) で

ご確認ください。

(末永 恵・文3)

[アメリカンフットボール]「秋季リーグ戦」展望

グリーンマシーン プレーオフのその先へ

キック力磨き チーム力向上

夕暮れ時、北グラウンドにアメリカンフットボール部を訪ねると、汗を滴らせながら練習に励む部員たちに出会う。グリーンマシーン(以下GM)は9月11日の関東大学リーグ戦(Bブロック)開幕戦に向け、準備を重ねている。

今年は、平野恭雄監督が引退し、ディフェンスコーディネーターを務めていた岡潔氏が新監督に就任、新たなスタートを切った。春季オープン戦ではルーキーらが結果を残し、頼もしい成長を見せた。一方、今後の課題として「キッキング全般の向上と、もっとアメフトを知ること。より高度なチームプレーを理解し、磨きをかけたい」と話す岡本衛主将(法4・崇徳高)。「例年のプレーオフ止まりではなく、その先の甲子園ボウル(東西大学王座決定戦)まで行きたい」と意気込みを語った。

オフェンスの司令塔・クォーターバックの中田雅之(法2・平安高)は「自分だけではなく、ラインにも力を借りて、勝つことにこだわっていきたい」とシーズンに向けての心境を言葉にする。ディフェンスの中心であるラインバッカーの鈴木陽平(経営4・横浜高)は「試合が終わって相手の得点がゼロだった時が最高の瞬間。リーグ戦でも目標は無失点です」と話す。

夏の合宿は山梨県山中湖、長野県飯綱高原で行われる。各自のスキルアップ、1対1の時の勝負強さ、チームプレーの完成度を高めることが目的だ。

岡監督は「初戦の慶大戦まで残り1カ月。自分を追い込んで、悔いの残らないよう精一杯過ごしてほしい」と選手たちにハッパをかける。

「今年は『進化』をスローガンにしています」と岡本主将。スローガン通り「進化」を続けるGM。実りある秋を期待したい。

(中川 泉穂・文2)



1対1での勝負強さを高める(北グラウンドで、撮影・富山)

関東大学アメリカンフットボールリーグ戦 Bブロック日程

9月	11日(日)	専修大-慶大	13:30	アミノバイタルフィールド
	24日(土)	専修大-筑波大	13:30	アミノバイタルフィールド
10月	15日(土)	専修大-横国大	16:00	川崎球場
	22日(土)	専修大-日大	13:30	アミノバイタルフィールド
11月	3日(木)	専修大-東海大	13:30	アミノバイタルフィールド
	13日(日)	専修大-法大	16:00	横浜スタジアム

※関東大学選手権(クラッシュボウル)＝リーグ戦上位2校が出場
 準決勝 11月23日(水) 駒沢陸上競技場
 決勝 12月4日(日) 味の素スタジアム

[水泳]

OWS 宮杉が初挑戦でV

7月18日に館山市北条中央海岸でオープンウォータースイミング・ジャパン(5キロ以下OWS)が行われ、宮杉理紗(文1・湘南工科大附属高)が見事初優勝に輝いた。

今回の大会は3つのポイントを通過してゴールを目指す。「海での試合、遠泳は初めてだった」という宮杉は、自分の力を試すために初めて遠泳の大会に出場した。普段出場している競泳に比べると6倍以上の距離になる上に、泳ぎ方も異なる。勝因を尋ねると「この大会を連覇している青学大の山口(同じスクールに通うライバル)の後についていけたこと。ラストスパートで抜いて勝利出来た」と話し、「まだ優勝したという実感はあまりない。今後も大きな大会で勝ち続けて、海外の大会へも参加したい」と力強く意気込みを語る。

競泳の関東学生、日本学生、そして遠泳の湘南OWSと大会が続くが、この勢いを持続させ、突き進んで行ってほしい。



賞状を手にする宮杉(撮影・柴田)

(柴田 麻実・文2)

[テニス]

男子シングルス 井上が優勝

9月の「本選」出場権獲得

関東学生選抜 7月9、10日、関東学生選抜テニストーナメントが行われた。男子シングルスで井上敬介(商1・日大三島高)が優勝し、9月に行われる関東学生大会本選の出場権を獲得した。

順調に勝ち抜いた井上だが、決勝戦は日大・刈谷に苦戦を強いられた。「最後まで諦めず、くらいついた」という粘り強さが、勝利に結びついた。「高校時代、一度負けた相手だっただけに、リベンジを果たせて良かった」と試合を振り返って語る。

本選への意気込みを尋ねると「春は本選に出られず悔しい思いをしたが、今回その悔しさを晴らせたので本当にうれしい。レベルが高くなる本選で、一戦でも多く勝ち進みたい」と力強く語った。

今大会の結果は、自信につながっただろう。堅実なプレーで臨む本選での活躍に注目したい。



練習で汗を流す井上(伊勢原グラウンドで)

(柴田 麻実・文2)

[準硬式野球]

OB監督対決—先輩・工藤さんに甲子園切符

決勝で藤田さん破る

今年の全国高校野球選手権大会に、準硬式野球部OBの工藤昌義さん(昭62商)が岐阜県代表・土岐商業高校の監督として出場する。県大会決勝で岐阜城北高校を率いる同部OBの藤田明宏さん(平2経済)との”同門対決”を制し、甲子園へ。快進撃を期待したい。

《国際大会出場選手》

◇スキー部

清澤 恵美子(経営4・歌志内高) FIS公認 ニューゼaland航空・FISサザンカップ(8月15～19日＝ニューゼaland・コロネットピークススキー場)